

【神の恵み】 ～マリヤの信仰姿勢に学ぶ～

【聖書箇所】 ルカ 1:26～38

1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。1:28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに。」1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。1:36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

【当時、ユダヤ地方における結婚の習慣】

婚約⇒結婚(約1年)⇒披露宴(披露宴後から一緒に生活)

【聖書の約束】 ローマ 8:28

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

【説教のポイント】

①私達は、神の恵みの約束を、「まるごと」受入れ、従っていこう。

おとめマリヤの元に、天使が遣わされた目的は、「神から特別な恵みが与えられる」と神の言葉を伝える為であった。聖霊の特別な働きによって、救い主を宿す事は、後にも先にもマリヤ 1 人に与えられた特別な恵みである。しかし、ヨセフと既に婚約/結婚していたマリヤにとって、この事は“恵み”であると同時に多くの“困難”を予期させるものであった。当時の人々にとっても、聖霊によって子供を宿すというは、とても受入れられる事ではなかった。ヨセフとの婚約/結婚は破談となり、人々の冷笑をあび、命の危険すらも予想される事であった。

しかし、マリヤは、神の言葉の約束通り、それら全てを含めて“神の恵み”として受け止めて告白した。

「私は主の召使にすぎません。何もかも主のお言いつけどおりにいたします。どうぞ、いま言われたとおりになりますように。(リビングバイブル)」

マリヤにとって、救い主を宿すという事が、心の底から「神の恵みだ」と言えるようになったのは、いつだったのだろうか。恐らく、主イエスの復活後、聖霊が注がれ、弟子達の宣教を通して、多くの人が、主イエスを信じて、救われようになってからであろう。

神は、私達にも、時に“困難や試練”という包装紙に包んで、“神の特別な恵み”を与えて下さる事がある。私達にとっては、今はとても“恵み”とは思えない事柄でさえも、神の約束を信じ、従っていく時に、神が“恵み”に変えて下さる。私達も、マリヤのように、どのような状況の中にも、神の恵みの約束を、まるごと受入れ、ひたすら神の言葉に従っていく者となろう。

●特に教えられた事、決心した事など
